

令和3年度第1回一宮市総合教育会議 会議録

1 日時

令和4年2月15日（火）15時30分～16時30分

2 会場

一宮市役所 本庁舎 11階 1101会議室

3 出席者

市長 中野 正康
教育長 高橋 信哉
教育委員（教育長職務代理者） 土川 正夫
教育委員 浅野 智貴
教育委員 浅井 衣子
教育委員 五藤 裕達
教育委員 高橋 富貴子
教育委員 青山 裕美

4 事務局（8名）

堀川行政課長、戸谷行政課専任課長、村山行政課課長補佐
野中教育部長、森教育部次長、平野教育部総務課長、櫻井学校教育課長、
長村教育部総務課専任課長

5 傍聴者

なし

6 議題

- (1) 一宮市の学校施設の現状と今後のあり方について

7 資料

- (1) 一宮市の学校施設の現状
- (2) 施設関連経費の推移
- (3) 児童生徒数および学級数の推移
- (4) 学校施設の老朽化対策に関するアンケート結果
- (5) 他市の事例

※会議の内容は次項のとおりです。

事務局

本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。ただ今から一宮市総合教育会議を開催させていただきます。本日は、傍聴希望者はございませんでしたので報告いたします。それでは、会議に先立ちまして、市長からごあいさつを申し上げます。

市長

みなさん、こんにちは。新型コロナウイルス感染症のまん延防止措置で小中学校では厳しい日々が続いております。ただ、高橋教育長のお言葉でなるほどと思いましたが、コロナが始まる3年前もインフルエンザで学級閉鎖をしていたり、これまで感染症との闘いは経験していますし、ましてや去年からGIGAスクール構想による一人一台タブレットということで子供たちの学びを止めない武器を手に入れたという状況があります。しっかりデジタルの新しい技術を活用しながら進めていきたいと思えます。今日は、学校施設について、大きなテーマでお話をさせていただきます。別の部で一宮市公共施設総合管理計画というものを策定していきまして、これは一宮市全体の公共施設についてまとめたもので、ちょうど今日報告を受けました。なるほどと思いましたが、一宮市の公共施設は全部で390施設、1,300棟、延床面積は103万㎡ですけれども、そのうち学校教育施設が44%と、全体の半分弱が教育施設です。施設数が63、棟数は656棟という状況です。さらに子育て支援施設ということで保育園、一宮市立ですと53園ありますが、これの面積が6.6%なので、二つを足すと市の公共施設の半分が子ども関係ということです。非常に大きいテーマですけれども、委員の皆様のお考えをいただきたいと思えます。よろしく申し上げます。

事務局

本日の議題は、「一宮市の学校施設の現状と今後のあり方」についてです。多くのご意見をいただきたいと思えますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、総合教育会議の設置に関する要綱第4条第1項により、ここからは市長が議長となります。よろしく願い致します。

市長

では、「一宮市の学校施設の現状と今後のあり方」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、初めに一宮市の学校施設の現状についてご説明します。現在は一宮市立の小学校が42校、中学校が19校、合計で61校ございます。各学校の校舎の築年数ですが、各学校の校舎の中で最も古い建物を採用し、基準年度は2021年度としますと、ほとんどの学校が築40年以上で、60年以上の学校も小学校で14校、中学校で8校ございます。校舎の面積は、校舎総面積約351,000㎡のうち、昭和40年代築の校舎面積は約64,000㎡、昭和50年代築の校舎は約197,000㎡です。昭和40、50年代に全体の約70%

を超える校舎が建築されています。次に、施設関連経費の推移です。平成 28 年度から令和 2 年度までの過去 5 年間では平成 28 年度が最も多く約 23 億円、令和 2 年度が最も少なく約 14 億円で、5 年間の平均は約 19 億 1 千万円となっております。現在は校舎等の機能向上と回復に向けた修繕、改修を実施し、建物の耐用年数を 80 年まで延ばすようにしております。学校施設の現状については以上です。

続きまして、今後の状況等についてご説明します。まず、今後の児童生徒数と学級数の推移です。令和 3 年度から令和 9 年度までの見込みとして、令和 9 年度は令和 3 年度と比較して約 3,500 人児童生徒数が減る見込みです。次に学級数の推移ですが、小学校は順次学級人数の上限が 35 人となる予定で、令和 9 年度は全学年で 35 人学級となった場合、令和 3 年度と比較して 53 学級減少となる見込みです。令和 9 年度に 1 学年でも 1 学級になることが予想される学校は 14 の小学校です。以前から児童数が少ない大志小学校では、令和 9 年度は 5 年生を除く学年が 1 学級となる見込みです。また、西成、浅井町、千秋町連区の小学校では、複数の学校で令和 9 年度までに 1 学級になる学年が出てきます。朝日西小学校は令和 9 年度には全学年が 1 学級となる見込みですが、すでに令和 3 年度においても 1 学級の状態です。

次に、文部科学省が平成 31 年 4 月に全国の学校設置者に対して実施したアンケート結果です。学校施設の老朽化対策を効率的、効果的に実施するために重要と思うものを集計したところ、順に、統廃合、空き教室の転用・使わなくなった施設の減築、他の公共施設の利用・集約化となっています。

他市の事例を紹介します。統廃合の例として、最近では瀬戸市が 5 つの小学校と 2 つの中学校を統合し、令和 2 年 4 月に小中一貫校「にじの丘学園」を開校しています。また、学校施設と他の公共施設を集約化した例として、埼玉県志木市では小学校と近接する公民館、図書館の老朽化、耐震化の問題の解決策として、小学校と社会教育施設との複合施設をつくっています。京都市では、京都御池中学校を保育所、老人福祉施設、商業店舗等との複合施設として P F I 方式により整備しています。

近隣の学校との施設の共同利用、民間施設の利用の例としては、プールの事例がございます。岡山県倉敷市では小学校に隣接する中学校が、小学校のプールを共同利用しています。また、佐賀県伊万里市では、老朽化したプールを改修せず、費用対効果を考え民間のプールを活用して授業を行っております。

その他として大都市の事例ではありますが、東京都港区が令和 4 年 4 月に新たに「芝浜小学校」を開校します。相次ぐタワーマンション開発などで子育て世帯が急増して、地区唯一の小学校である芝浦小学校におきまして、校舎の増改築などでは対応できなくなったため、小学校を新設します。

一宮市におきましては、学校施設は建築からかなりの年数が経過しています。すべての施設を建て替えるには莫大な費用と年数がかかります。築 60 年を超える校舎もあり、今後のあり方を考えなければならない時期にきております。以上です。よろしくお願

いたします。

市長

説明がありましたが、ご意見、ご質問等ございましたら発言をお願いします。

委員

建物の耐用年数を 80 年まで延ばすというお話でしたが、80 年経過後の予定はあるのでしょうか。

事務局

国から 80 年もたせるよう長寿命化の指示は出ておりますが、それ以降については今のところ示されておられません。

市長

一番早く 80 年に達する小中学校はどこですか。

事務局

小信中島小学校が昭和 29 年建築で 67 年を経過しています。

市長

まだ 10 年と少しの余裕はありますが、残された時間は短い気がします。どの段階で建て替えるのでしょうか。やはり古いところからですか。

委員

校舎の建て替えに係る費用は全額を市が負担するのですか。

事務局

現時点の話ですが、国から 3 分の 1 の補助が出ます。また、市の施設と複合させると補助の割合が 2 分の 1 になります。

委員

今は少子化の問題もあると思いますが、先を見据えて統合という案も考えにはあるのでしょうか。

事務局

学年で 1 クラスという学校も出てきていまして、ただ、統合となりますと地域の方々の意見もございますので、地域から統合してほしいとの動きがあれば進めていくことも考えられますが、市側から統合案を切り出すことは難しいところがあります。

委員

新しい施設を建て直すとなると、中部中のように周りにスペースがないようなところで敷地はどうするのかと思います。そのまま建て直すのではなく、施設の複合化などの考えもあるのでしょうか。

事務局

あると思います。現に学校によっては校庭が狭く、建て替えようにもプレハブ 1 つ建てられないところもございます。

市長

神山連区ですと産業体育館を建て直すときに公民館、老人福祉施設を1つにまとめることで面積を減らすことができましたので、やはり集約すると効率的になるのかなと思います。

教育長

統廃合ですが、一宮市の場合、実際そのような状況にあるのかというところも一つ考える必要があると思います。他市の例で出たにじの丘学園は小学校5校がほぼほぼ単級学校で、3キロ圏内という狭い範囲でまとまっていた。それと中学校2校をまとめて小中一貫校にしたという実情があります。一宮市は、一番小さい朝日西小学校でも複式学級にするような状況には、令和9年度まで見ても起こらない。ということは、小学校は地域の大事な学校として残していく、という風に考えた方がいいのかどうかということです。そこで、そういう見方をしますと中学校区まで見た時に、例えば大和南中学校は大和中学校を分けてできた学校です。ところが、今は2つの学校を合わせても昔の大和中学校1校だった時より少ない状況です。西成中学校も同じように西成東部中学校に分けましたが、同じような状況です。それならば、統廃合というよりは、元々あった形に戻すという考えもあるのではないかと。統廃合というのは、先ほどのにじの丘学園のように、学校を維持できない状況なのでまとめましょうというところが多いです。一宮はそこまではまだ行っていないのではないかと思います。それでも思い切って統廃合を進めていくのかというところを委員の皆様伺ってみたいです。

委員

奥町、北方町は地域に小中学校が1校ずつ、特に北方は学校が隣接しているので、小中一貫にすることを検討してみてもいいのではないかと思います。

市長

学校施設が昭和に建てられたものなので、できるだけ早く子どもたちに令和の時代に合った環境を整えてあげたいという想いからいくと、奥や北方のようなところに小中一貫の建物やエアコンの効く体育館を造れたらいいですね。

委員

建て替えを行う場合、学校全面で行うのでしょうか。

事務局

古い校舎から順次行うことを考えております。敷地内全ての校舎を一度に行うわけではありません。例えば一番年数が経過している小信中島小学校ですと、北舎が古いものになります。

委員

古いところ、悪いところから順番に建て直していくと、例えば40年経過して教育の形が変わっていたとしても学校の形はいつまで経っても変わらないことになってしまうと思います。例えば小学校と博物館、中学校と美術館が一緒になった施設があってもいいんじゃないかとか、色々なものとの組み合わせによって、市の特色のある学校ができるのを想

像すると楽しいですね。

委員

1月に開催された夢フォーラムで、20年後の学校のあり方というのを生徒さんが色々出していたので、そういう意見も取り入れてみてはどうでしょうか。

委員

極端な話で今のところは考えられないですが、例えばクラスがない学校というのはどうでしょうか。最近では会社でフリーアドレスが導入されていたりしますし、自分のクラスではなく、国語のクラス、数学のクラスがあるというふうになったら、生徒数によってクラスが減ったり増えたりということがなくやれるのではないかと思います。

市長

私も同じことを思っていました。義務教育ということで社会生活、集団生活を経験させるという意味で小学校の低学年の子たちは今のようにクラスは必要かと思いますが、高学年、中学生になったら、そもそもクラスは必要かという出発点から始まってくるんでしょうね。みんな同じ方向を向いて先生の言う通りにノートをとるといった一方通行の授業は段々なくなっていくでしょうね。令和9年とは思いませんが、あと10年も経つと委員の言われるような方向性がリアルなものになってくるかもしれません。どこかでパイロットプロジェクトとしてやるエリアがでてくるといいですね。

教育長

形として、先ほどお話に出た北方小中学校は全くの隣同士なので、別々に用意していたものを1つにまとめて一緒に使っていくというような、できることを見つけていくことは大事だと思いますし、地域から小中一貫校にしたいというところがあって合意がいただければ進んでいくのかなと思います。とにかく、古くなった建物を改築、あるいは壊れたところを修理していくという形でこれだけの施設を維持していくことは大変な負荷がかかるので、それを減らしていかなければ次への手を打つためのお金も生まれません。

市長

延床面積としては減らしつつも、中身はアップグレードさせないといけないですね。

教育長

学校施設は市内の色々な地域にありますが保育園も同じなので、保育園の施設がどこまで古くなっているかを把握しておりませんが、一緒にやれることはないか、また、児童クラブや放課後子ども教室なども含めて学校のことを考えていかなければと思います。教育委員会だけでは今あるものを今の形でとるのがちなので、色々な視点で検討していくと道が見えてくるように思います。

市長

壮大なテーマではありますが、それでも確実に建物の寿命は迫ってきますし、そこで単純にこれまでと同じようにするのではなく、ぜひ一宮市らしい新しいものを皆さんと検討していければと思います。

事務局

多くの意見を頂戴しありがとうございました。これで令和3年度第1回総合教育会議を終了します。